

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (1/4)

学部・学科	臨床心理学部・臨床心理学科	職名	講師	氏名	フルカワ ヒロユキ 古川 裕之			
学歴	平成17年 3月 京都大学教育学部教育科学科 卒業 平成20年 3月 京都大学大学院教育学研究科臨床教育学専攻修士課程 修了 平成23年 3月 京都大学大学院教育学研究科臨床教育学専攻博士後期課程 研究指導認定退学							
学位	平成20年 3月 教育学修士 (京都大学) 平成26年 3月 教育学博士 (京都大学)							
専門分野	臨床心理学							
専門資格	臨床心理士 (第20307号)							
所属学会	平成18年 7月 日本心理臨床学会 平成22年 3月 日本箱庭療法学会 平成22年11月 日本芸術療法学会 平成25年 6月 日本ユング心理学会							
受賞	該当なし							
担当授業科目	学 部 初年次演習、コミュニケーションスキル演習、心理学実験査定 (初級) ・ 、心理学実験査定 (中級) A-1・A-2・B-1・B-2、臨床観察実習、臨床心理学実践演習 (箱庭療法5)							
論文指導	論文指導 [主査] (卒論 : 該当なし) 論文審査 [副査] (卒論 : 7 名)							
F D 活 動 ・ 教 育 実 績	科目名	コミュニケーションスキル演習	科目カテゴリー	講義・演習・実習・実験	実施学期	春・秋	履修者数	18名
	授業の概要 : さまざまな課題の実践を通して、各自のコミュニケーションのモチベーションを振り返り、その特徴に気づき、より良いコミュニケーションをおこなえるようになるためのヒントを得ることを目的として行う演習である。具体的には、ペア・グループで様々なワークを行った。							
	1	教育活動の振り返り 教育活動の成果 : ワークの振り返りをノートに記入させ、翌週の授業時にコメントを付して返却した。これによって、自身の体験を基とした上で、ワークの中で学び取って欲しいコミュニケーションスキルが、受講生の中で、より明瞭になったと考えられる。また、授業をよりよくするためのアンケートに加え、受講生からの希望を聴取した上で、ワークの内容を適宜修正した。 今後の課題 : 受講生個人により、コミュニケーションスキルや自身のそれについての認識も異なるため、コメントを返す以外の形でもより丁寧にフォローしていく必要がある。						
	科目名	心理学実験査定 (初級)	科目カテゴリー	講義・演習・実習・実験	実施学期	春・秋	履修者数	24名
授業の概要 : 基礎的な心理学実験を実習する。実験計画、刺激の統制、データの収集、分析、レポート作成を行う。								
2	教育活動の振り返り 教育活動の成果 : 実験ごとに提出させるレポートを添削して返却することで、心理学のレポート・論文の書き方についての理解が深まったと考えられる。また、実験データの処理の仕方や図表作成の方法など、卒論執筆だけでなく様々な場面でも応用可能なジェネリック・スキルを習得させることができたと考えられる。 今後の課題 : 統計処理に関しては、実験授業のみではなく、心理統計学の授業の知識も必要となるため、心理統計学の授業進捗を考慮に入れることも必要である。							

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (2/4)

<p>F D 活 動 績</p>	<p>・学内外のFD関連講演会/セミナー等への参加実績 京都文教大学 2014年度 第1回FD講演会「京都文教大学の初年次教育を考える ジェネリック・スキルを育てるための科目間連携」に参加した。</p> <p>・教育効果が高い、あるいは教育の一環として行われている課外活動等 オフィスアワー等を利用し、学生の学習指導を行った。</p>
<p>H26 年度 研究課題</p>	<p>1. 風景構成法のやり取りと作品変化に関する研究 2. 風景構成法の発達の側面の比較研究 3. 現代における心理的空間の様相の研究</p>
<p>平成 二 十 六 (2014) 年度 の 研 究 活 動 の 概 要</p>	<p>1. 風景構成法における描き手の体験に関して、平成25年度に執筆・投稿した事例研究論文・調査研究論文がそれぞれ学会誌に掲載された。後述:(論文) これらの論文を基に平成25年度に京都大学教育学研究科に提出した博士論文について出版準備を行い、平成26年度内に刊行予定である 後述:(著書)。また、過去に継続実施した調査参加者と連絡を取り、さらなる継続調査を実施した。</p> <p>2. 平成25年度に日本箱庭療法学会第27回で共同発表を行った、風景構成法による現代の日韓小学生の発達比較の研究について、論文にまとめ学会誌への投稿準備段階にある。</p> <p>3. 研究資料の収集を行った。</p>
<p>平成 二 十 六 (2014) 年度 の 主 な 研 究 成 果 等</p>	<p>(著書)</p> <p>1. 『心理療法としての風景構成法 その基礎に還る』、単著、平成27年3月、創元社、248p</p> <p>(論文)</p> <p>1. 「描き手が自身の風景構成法を眺める体験の検討 PAC分析を用いて」、単著、平成26年6月、日本心理臨床学会 心理臨床学研究32巻2号 (pp.261-266)</p> <p>2. 「自傷行為を繰り返した女性との描画を用いた心理療法 描かないことをめぐって」(研究報告) 単著、平成26年7月、日本箱庭療法学会 箱庭療法学研究27巻1号 (pp.41-52)</p> <p>(学会報告、学会活動)</p> <p>(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)</p> <p>(調査活動)</p> <p>(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)</p> <p>(学内活動)</p> <p>人権委員会委員、オープンキャンパス委員会委員</p>
<p>平成 二 十 六 (2014) 年度 の 社 会 に お け る 活 動</p>	<p>・財団法人療道協会西山病院 心理士「平22.3より」 ・京都府臨床心理士会理事(会計担当)「平26.5より」</p>
<p>平成 二 十 一 ～ 二 十 五 (2009～2013) 年度 の 主 な 研 究 成 果 等</p>	<p>(著書)</p> <p>1. 「風景構成法における“あうんの呼吸” 主体との関連で」、単著、平成21年7月、ぎょうせい、皆藤章編、現代のエスプリ505号 風景構成法の臨床 (pp.87-95)</p> <p>2. 「風景構成法における身体性」、単著、平成21年9月、創元社、伊藤良子・大山泰宏・角野善宏編、京大心理臨床シリーズ9 心理臨床関係における身体 (pp.115-122)</p> <p>(論文)</p> <p>1. 「描画作品の変化の意味について 表現心理学からの検討」、単著、平成22年3月、京都大学大学院教育学研究科紀要第56号 (pp.223-235)</p> <p>2. 「浮遊し「繋がらない」世界を生きる自閉傾向の9歳男児とのプレイセラピー」、単著、平成22年3月、京都大学大学院教育学研究科心理教育相談室 臨床心理事例研究第36号 (pp.173-186)</p>

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (3/4)

(論文 つづき)

3. 「空間との関わりに表れる日本人のこころ トイレ空間の誕生と変遷」, 共著、平成22年3月、京都大学カウンセリングセンター紀要第39輯 (pp.27-47)
4. 「風景構成法の構造的特徴 非対称性と言葉を手がかりに」, 単著、平成23年3月、京都大学大学院教育学研究科附属臨床教育実践研究センター紀要第14号 (pp.86-97)
5. 「「便所飯」についての心理学的考察 解離という視点から」, 単著、平成24年3月、京都大学カウンセリングセンター紀要第41輯 (pp.47-57)
6. 「風景構成法作品の振り返り体験 PAC分析による検討」, 単著、平成24年3月、日本芸術療法学会誌Vol.41 2 (pp.24-30)
7. 「風景構成法における彩色過程の基礎的研究 彩色指標作成の試み」, 共著、平成24年7月、日本箱庭療法学会 箱庭療法学研究第25巻1号 (pp.103-110)
8. 「トイレ空間にみる現代の意識」, 共著、平成24年11月、日本箱庭療法学会 箱庭療法学研究第25巻2号 (pp.13-24)
9. 「青年期非臨床群の風景構成法作品の特徴 構成・彩色及び作品変化の観点から」, 単著、平成25年3月、京都大学大学院教育学研究科紀要第59号 (pp.175-191)
10. 「風景構成法に関する心理臨床学的研究 やり取りと作品変化の検討を中心に」, 単著、平成26年3月、京都大学大学院教育学研究科課程博士論文、231p

(学会報告、学会活動)

1. 「風景構成法における彩色についての研究」、共同、平成21年9月、日本心理臨床学会第28回秋季大会、東京国際フォーラム
2. 「風景構成法作品の振り返り体験について PAC分析を用いた検討」, 単独、平成21年9月、日本心理臨床学会第28回秋季大会、東京国際フォーラム
3. 「風景構成法の作品変化についての表現心理学的検討」, 単独、平成22年9月、日本心理臨床学会第29回秋季大会、東北大学
4. 「風景構成法における発達の側面に関する年代比較 20年前と現代の小学生による風景構成法描画の構成型に注目して」, 共同、平成24年9月、日本心理臨床学会第31回秋季大会、愛知学院大学
5. 「20年前と現代の小学生による風景構成法描画の比較 複数の評定者による構成型判定の“不一致”に着目して」, 共同、平成24年9月、日本心理臨床学会第31回秋季大会、愛知学院大学
6. 「自傷行為を繰り返した20代女性との面談 描画法において描けないことの意味」, 単独、平成24年10月、日本箱庭療法学会第26回大会、米子コンベンションセンター
7. 「風景構成法の描画表現から見た現代の中学生の発達の側面 構成型分類を手掛かりに」, 共同、平成25年10月、日本箱庭療法学会第27回大会、大阪府立大学
8. 「風景構成法における発達の側面に関する国際比較 日韓の小学生による描画に着目して」, 共同、平成25年10月、日本箱庭療法学会第27回大会、大阪府立大学

(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)

1. 「風景構成法における彩色についての研究」、共著、平成22年3月、大学院教育改革支援プログラム「臨床の知を創出する質的に高度な人材養成」(研究代表者：京都大学大学院・教育学研究科心理臨床学講座・教授 桑原知子) 研究開発コロキウム平成21年度研究成果報告書 (pp.58-72)
2. “My experience in Dr.Giegerich’s seminar”、単著、平成22年3月、大学院教育改革支援プログラム「臨床の知を創出する質的に高度な人材養成」(研究代表者：京都大学大学院・教育学研究科心理臨床学講座・教授 桑原知子) 平成21年度国際企画成果報告書 (p.35)
3. 「風景構成法における発達の側面の再検討」、共著、平成23年3月、京都大学グローバルCOE「心が生きるための国際的拠点」(中核となる専攻等名：京都大学大学院教育学研究科教育学専攻、リーダー：子安増生) 研究開発コロキウム平成22年度研究成果報告書 (pp.80-89)

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (4/4)

平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度の 主な研究成果等	(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等 つづき) 4. 海外文献抄録、共著、平成23年12月、金剛出版、精神療法第37巻第6号 (pp.126-134) 5. 海外文献抄録、共著、平成24年12月、金剛出版、精神療法第38巻第6号 (pp.148-155)
	(調査活動)
	(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)
	(学内活動) 平成25年 4月 オープンキャンパス委員会委員「現在に至る」
平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度の 社会における活動	(小中高との連携授業の講師) 平成25年11月 東宇治高等学校模擬授業、「こころの不思議 臨床心理学入門」、於：京都府立東宇治高等学校
	(その他) 平成22年 3月 財団法人療道協会西山病院 心理士「現在に至る」